
医学教育分野別評価
日本医科大学医学部医学科
年次報告書
2024 年度



医学教育分野別評価 日本医科大学医学部医学科 年次報告書

2024年度

医学教育分野別評価の受審 2023（令和 5）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver2.34
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver2.36

はじめに

医学教育分野別評価基準日本版 Ver2.34（2022 年 4 月版）をもとに日本医科大学は去る 2023 年 6 月に医学教育分野別評価・2 巡目を受審し、2024 年 2 月に正式に「認定」の決定を受けた。認定期間はトライアル校の規定に従い 2031 年 1 月 31 日までである。この際の指摘事項も念頭に置き、日本医科大学では教務部委員会を中心に教育カリキュラムの改善を継続的に行っている。

カリキュラム委員会は教務部委員会の下部組織として、カリキュラム評価委員会（自己点検評価委員会の下部組織）の評価も受けながらカリキュラムの検討を行い、教務部委員会ならびに医学教育センターを通じてカリキュラムの実質的な改善と実施を促している。

本報告書は、2023 年 6 月から施行された、あるいは教授会などで実施が決定されたカリキュラム改善と実施に係る年次報告書であり、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 を踏まえたものである。また記載内容は、カリキュラム委員会が取り纏め、カリキュラム評価委員会、医学部教授会に提出されたカリキュラム実施改善報告書内容に基づくものである。重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 の転記は省略し、領域名のみ新しいものを斜字体で併記した。今年度は特に、2023 年 6 月の分野別評価 2 巡目受審の指摘内容に焦点を当て報告する。

2024 年 8 月 31 日

近藤幸尋	医学部長
佐伯秀久	教務部長
森田林平	医学教育センター長
藤倉輝道	カリキュラム委員会委員長
舘野 周	カリキュラム委員会副委員長

評価受審年度 2023（令和5）年

1. 使命と学修成果

学修成果として「日本医科大学コンピテンス・コンピテンシー」を策定し公開するとともに、教職員、学生代表、同一法人内の日本獣医生命科学大学教員、看護師等メディカルスタッフ代表が参加するFDワークショップで検討を繰り返している。今後はこの中で使命と学修成果の策定に係る検討を定例化していくこととした。また学生代表、看護部代表、模擬患者などが参加するカリキュラム委員会でも見直しを図っていく。一方で、教育理念の中に、目的とする資質・能力をより具体的に示すことが求められている。この点を含め、教育理念と目標とする学修成果の策定に責任を持つ組織と手続きを明確にすること、さらに多くの教育に関わる主要な構成者を参画させることが求められている。教務部委員会と医学教育センター・医学教育研究開発部門が協働し行うこととし、まず規約の整備を行うこととした。

1. 使命と学修成果	1.1 使命
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
電子黒板によるアニメーション掲示に加え、学内の多くの場所に建学の理念・学是・教育理念を掲示し、多くの大学の校正者や医療関係者に周知している。	
改善のための助言	
教育理念の中に、目的とする資質・能力をより具体的に示すべきである。	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・1 巡目の際と同様に、速やかに今回の2 巡目評価の学内共有を図るべく、令和5年7月22日、23日に第42回日本医科大学医学教育のためのFDワークショップを開催した（資料1）。教職員に加え学生代表、同一法人内の日本獣医生命科学大学教員、看護部職員が参加した。学是や教育理念については学内に深く浸透しており、変更には慎重な意見が多かったが、コンピテンス・コンピテンシーの周知についてはさらなる工夫が必要との意見があった。コンピテンス毎に学生表彰を行う、SNSやe-ラーニングを活用するなどの具体案も出された。 ・改善のための示唆に対しては、教育理念そのものを変えるのではなく、副題のようなものを付けるという案が出され、同席した教学の執行部に属する教員らもこれを妥当と考えた。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念の中に、目的とする資質・能力を具体的に示すために、現在の教育理念そのものは本学では深く浸透していることを踏まえ、注釈を加える、副題を付けるなどの対応を行うこととし、教務部委員会、医学教育センターで素案を作成することとした。 	

改善状況を示す根拠資料

資料 1 第42回FDワークショップ実施要綱、日程表、参加者一覧

資料 2 定例（R6.7月）教務部委員会議事録（抜粋）

1. 使命と学修成果	1.1 使命
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
なし	
改善のための示唆	
教育理念の中に、国際的健康、医療の観点や目的を具体的に示すことが望まれる。	
関連する教育活動、改善状況	
<p>・改善のための示唆に対しては、教育理念そのものを変えるのではなく、副題のようなものを付けるという案 FD ワークショップの中で出され、同席した教学の執行部に属する教員らもこれを妥当と考えた。</p>	
今後の計画	
<p>・教育理念の中に、目的とする資質・能力を具体的に示すために、現在の教育理念そのものは本学では深く浸透していることを踏まえ、注釈を加える、副題を付けるなどの対応を行うこととし、教務部委員会、医学教育センターで素案を作成することとした。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料 1 第42回FDワークショップ実施要綱、日程表、参加者一覧 資料 2 定例（R6.7月）教務部委員会議事録（抜粋）</p>	

1. 使命と学修成果	1.2 大学の自律性および教育・研究の自由
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
「新臨床SGL」として、VRを用いた高機能シミュレータとICTを活用したPBLを実施している。	
改善のための助言	
なし	
関連する教育活動、改善状況	
・現状を維持しつつ、さらなるプログラムの拡充を図っている。	
今後の計画	
・VRについては、同時中継形式の活用に加え、事前に作成したコンテンツも用いて改善を進めていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3 新臨床SGL(PBL)資料	

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
学修成果として「日本医科大学コンピテンス・コンピテンシー」を策定し、公開している。	
改善のための助言	
なし	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンス・コンピテンシーの周知については、まず入学案内でわかりやすく明示し低学年で十分周知することとした。それ以降は従来の e-ポートフォリオ活用を継続し、CC-EPOC とも連動させた。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生、教員への継続的浸透の場として e-ポートフォリオ活用をさらに推進する。教授、准教授、講師（教育担当）が中心となりこれに取り組むこととする。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 1 第42回FDワークショップ実施要綱、日程表、参加者一覧 資料 4 令和7年度入試 大学案内コンピテンス	

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
「日本医科大学コンピテンス」と臨床研修到達目標の対応を明確にし、両者を関連づけている。	
改善のための示唆	
卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果を、コンピテンシーレベルにおいても関連づけることが望まれる。	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・藤倉教授が、共用試験実施評価機構が定めるマイルストーン策定に関するワーキンググループに参加しており、その成果物を参考にし、検証することとした。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・共用試験実施評価機構が定めた「臨床実習終了までに修得すること（CATO）」の12個の目標」を介し、卒後研修終了時の学修成果を念頭に置くマイルストーンを独自に作成し、その際に本学のコンピテンス・コンピテンシーを関連付ける。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料1 第42回FDワークショップ実施要綱、日程表、参加者一覧 資料5 臨床実習終了までに修得すること(CATO)	

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>特記すべき良い点</p>	
<p>教職員、学生代表、看護師等メディカルスタッフ代表が参加する「医学教育のためのFDワークショップ」でコンピテンス・コンピテンシーを検討している。</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<p>教育理念と目標とする学修成果の策定に責任を持つ組織と手続きを明確にし、さらに多くの教育に関わる主要な構成者を参画させるべきである。</p>	
<p>関連する教育活動、改善状況</p>	
<p>・FDワークショップを活用し、学生代表や日本獣医生命科学大学の教員、看護部などのメディカルスタッフから意見を求めるという方略はすでに長く行われており、これは継続していく。しかし、FDワークショップは年度によりテーマが異なり、この教育理念と目標とする学修成果の策定を毎回扱うわけでは無かった。今後は毎年、主テーマとは別に一定時間をこれに充てることとする。</p> <p>・学修成果の策定に関しては、本学としては主要な構成者は従来参加してきたと考えるが、法律家などの学外者をさらに加える、策定過程を公開し、パブコメも求めるなどの案が第42回FDワークショップで出された。本件に関わる新たな委員会やワーキンググループの設置も提案されたが、既存、常設の委員会が担うことが望ましいと考える。組織と手続きの明確化は教務部委員会で入念に審議していくこととする。</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>・年2回開催される「医学教育のためのFDワークショップ」の中で、毎年、本学の教育理念と目標とする学修成果の策定についてグループワークを行う時間を設けることとする。</p> <p>・組織と手続きの明確化については、教務部委員会を中心に審議していく。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料 1 第42回FDワークショップ実施要綱、日程表、参加者一覧 資料 6 第42回FDワークショップ グルーワーク発表資料</p>	

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
なし	
改善のための示唆	
教育理念と目標とする学修成果の策定には、さらに多くの教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。	
関連する教育活動、改善状況	
<p>・先に記したように、教職員に加え学生代表、同一法人内の日本獣医生命科学大学教員、看護部職員が参加する FD ワークショップにおいて意見聴取は継続していく。この教育理念と目標とする学修成果の策定をテーマに毎年一定時間グループワークを行うこととする。学修成果の策定に関しては、本学としては主要な構成者は従来参加してきたと考えるが、法律家などの学外者をさらに加える、策定過程を公開し、パブコメも求めるなどの案も出された。具体的方略は、まず医学教育センターで練ることとした。</p>	
今後の計画	
<p>・教育に関わる主要な構成者に加え、どのような属性の方々をこれに加え意見を聴取すべきか、医学教育センターにおいて医学教育学的観点からこれを検討する。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料 1 第42回FDワークショップ実施要綱、日程表、参加者一覧 資料 6 第42回FDワークショップ グループワーク発表資料</p>	

2. 教育プログラム

新カリキュラムが稼働し、その1年後に適用されたモデル・コア・カリキュラム令和4年度版との整合性も確認した。GPA上位者特別プログラムは利用者も順調に増え、研究活動やこれに伴う学会発表なども盛んにおこなわれている。ICT、AI、VRなど最新のテクノロジーを活かした教育もさらに推進している。

一方で、診療参加型臨床実習の充実が継続課題であり、実習中のEBM教育、行動科学教育の充実化も求められている。健康増進や予防医学の体験の場の確保も懸案事項である。今回、生涯学習につながるカリキュラムの充実も求められた。本学のVisionとしてかねてよりヒューマニティ教育の拡充を掲げており、これがひとつの方略に繋がると考えている。また卒業生が将来働く環境からの情報、地域や社会の意見の教育プログラムへの反映については、その情報収集方法において課題が残る。

2. 教育プログラム	2.1 教育プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムの改善を目的として「縦断型」と「累積型」で構成する新カリキュラムを2023年度から開始している。 ・「講義収録システム」によって全講義を収録し、学修支援システムを活用して豊富なビデオコンテンツを提供している。 ・GPA上位者に対して研究活動や海外留学などを積極的に支援するプログラムを実施し、学生の学修意欲を刺激している。 	
改善のための助言	
なし	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム導入1年目は問題なく推移し、また新旧カリキュラムの同時運用も適宜対応策を講じ（特に進級判定や定期試験に関して）問題なく年度末を迎えた。 ・GPA上位者特別プログラムは、1年次、2年次、3年次の成績優秀者（GPA平均2.8以上）を対象に、それぞれ2年次、3年次、4年次において、実習を除く授業で、あらかじめ指定した試験科目の受験資格を得るために必要な出席授業時数（実習を除く）を満たしたものとして取り扱うというもので、研究活動や海外留学などを積極的に促す制度である。今年度、この制度の適用を受けた学生は、第2学年34名、第3学年33名、第4学年33名の合計100名（昨年度から14名増）であった。リサーチマインドの涵養や留学経験など、成果の検証は後年でなければ十分に行うことは難しいが、年度ごとの自己評価をもとに教務部委員会で形成的評価を行っている。本プログラムの活用もあり、研究活動に取り組む学生の増加が認められている。 	

今後の計画

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・特別プログラム制度の推進とその成果の検証を引きつづき行う。・新カリキュラム導入2年目に入り、問題点はカリキュラム委員会で抽出、検討し、教務部委員会に提案しながら必要に応じて修正を加えていく。 |
|---|

改善状況を示す根拠資料

資料7 GPA上位者特別プログラム活動報告一覧

2. 教育プログラム	2.1 教育プログラムの構成
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
なし	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習につながるカリキュラムをさらに充実することが望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・GPA 上位者特別プログラム制度は本学の『愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成』という教育理念に基づき、自らの学修に責任をもたせることを目的としている。年々この制度適用者は増えている。研究配属の充実化とも連動し、リサーチマインドの涵養にもつながっている ・『愛と研究心』の中の『愛』の部分の涵養については、第 42 回 FD ワークショップの中でも議論がなされた。語呂合わせの様であるがまさに AI（人工知能）活用との関係性を指摘する意見も出された。基本的には「ヒューマニティ教育」の推進が必要と考えられ、次年度の FD ワークショップのテーマと定めた。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマニティ教育の推進に向け、協定校である早稲田大学の人文科学系カリキュラムの聴講、NHKの提供するコンテンツ視聴の導入などを検討する。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料6 第42回FDワークショップ グループワーク発表資料</p> <p>資料8 GPA上位者高評価者抜粋</p> <p>資料9 令和5年度第3学年研究配属 配属先一覧</p> <p>資料10 令和5年度研究配属継続状況一覧</p>	

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を実施している。 ・EBM教育に関して、低学年からの体系的なカリキュラムを構築している。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習におけるEBM教育をさらに充実すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定された教育プログラムの中から、先導的で独自の工夫・特色を有するものとして2023年8月25日に文部科学省より「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に選定された。これまでにリテラシーレベルに認定された私立大学209大学のうち、リテラシーレベルプラスに選定された大学は6大学、私立医科大学では本学が唯一選定されている。同プログラムは新カリキュラムの中でも順調に推移している。 ・EBM 教育に関するカリキュラム構成は基本的に変更はない。臨床実習中のUpToDate活用を推進するために、レポート作成の際にはこれを活用し引用することを一部の科で推奨した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・UpToDateの利用状況を検証し、全診療科での利用を促すなど、臨床実習中のさらなる利用を促進する。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料11 リテラシーレベルプラス選定（教務部委員会資料）</p> <p>資料12 UpToDateの活用（シラバス例示）</p>	

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・VR技術を活用した「新臨床SGL」を導入している。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・新臨床 SGL は担当教室を当初の救急医学に加え、循環器内科学が参加した。このように徐々に担当教室を増やし、同時にコマ数を増やしていく。また同時に授業用の VR コンテンツを作成していく。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育センターVR推進部門を中心に、教育用VRコンテンツの作成支援とライブラリーの管理をさらに推進する。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料3 新臨床SGL(PBL)資料	

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための示唆	
・現在および将来的に社会や医療システムに必要になると予測されることを、新カリキュラムに確実に反映させることが望まれる。	
関連する教育活動、改善状況	
・「現在および将来的に社会や医療システムに必要になると予測されることを、新カリキュラムに確実に反映させること」は基礎医学にかぎる課題ではないことを認識した。	
今後の計画	
・現行のカリキュラムを扱うカリキュラム員会とは別に、あるいはその中に本件を扱う将来構想委員会に相当する委員会を設ける。	
改善状況を示す根拠資料	
資料13 定例（R6.6月）教務部委員会議事録（抜粋）	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、 医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・救急医学の臨床実習において、医療倫理に関する「多職種連携カンファランス」を導入している。	
改善のための助言	
臨床実習においても行動科学教育をさらに充実すべきである。	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・救急医学のCC中においては「延命処置」の取り扱いなど、特に医療倫理に関するテーマで多職種連携カンファランスを導入している。 ・2023年秋より、3年次に武蔵野大学薬学部との合同SGL（PBL）を開始した。この中でも服薬アドヒアランスを扱っており行動科学教育の一助としている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・まずCCポートフォリオの利用を促す。その中で、服薬アドヒアランスや、告知など行動科学的要素の強い課題を出し、指導教員とのディスカッションを行うプログラムを構築する。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料14 多職種連携打合せ記録	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、 医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・厚生労働省から講師を招き、人口動態および文化の変化に対応する体系的な「社会医学特別プログラム」を実施している。	
改善のための示唆	
なし	
関連する教育活動、改善状況	
・2017年度から開始した4年生向けの厚生労働省課長クラスの担当者による社会医学特別講義は、他学年も後日資料などは参照できるようにLMSに載せている。この動画コンテンツはe-ラーニング化を行い、低学年でも活用している。	
今後の計画	
・厚生労働省技官に限らず、社会学系の外部の専門家の登用を積極的に行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料15 厚生労働省担当者による社会医学特別講義	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 付属4病院において各診療科1～4週（内科、外科、産科、小児科は4週）のローテーションで合計70週の臨床実習が行われている。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種連携教育をさらに充実すべきである。 ・ 総合診療科や地域医療での臨床実習をさらに充実すべきである。 ・ 健康増進と予防医学の体験ができるカリキュラムを充実すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 救急医学のCC中においては「延命処置」の取り扱いなど、特に医療倫理に関するテーマで多職種連携カンファレンスを導入している。 ・ 2023年秋より、3年次に武蔵野大学薬学部との合同SGL（PBL）を開始した。 ・ 小児科では、乳児検診、予防接種に関する実習の拡充を図っている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合診療科や地域医療での実習は、千駄木以外の付属3病院での実習の中でそのような要素を組み込むよう検討を進める。 ・ 健康増進と予防医学を体験するプログラムは、臨床実習前教育期間での実施を検討する。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料14 多職種連携打合せ記録</p> <p>資料16 小児科シラバス</p>	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
なし	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学生が、早期から患者と接触する機会を全学年でさらに充実することが望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ COVID-19の影響で、第1学年、第2学年の医学実地演習、特に介護施設等の協力を仰ぐ第2学年の実習は制限されてきた。これを徐々にCOVID-19以前の形態に戻しつつある。第4学年以降の診療参加型臨床実習は、地域医療実習（市中の診療所で行う）も含め元の形に戻した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムでは第3学年で新たに医学実地演習を導入する予定である。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料17 令和5年度 医学実地演習1 概要 資料18 CCポートフォリオ利用実績報告	

2. 教育プログラム	2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・生理学、薬理学、微生物学、免疫学および病理学を統合した「基礎医学系水平統合プログラム/SGL」を実施している。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の評価を含め、水平的統合および垂直的統合を進めることが望まれる。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・3年次で「基礎医学系水平統合プログラム/PBL」を実施している。このプログラムは、薬理学教室や微生物・免疫学教室がコーディネータとなり、臨床課題を提示し3週間にわたり学習する。課題は毎年3～4の基礎医学の教室が協働で作成し水平統合を促す授業を行う。形式的にはLMS上を用いた事前学習、座学の講義と個人単位で行う問題基盤型学習である。基礎医学教室がローテーションを組み、教室の枠を超えた水平的統合が行われている。講義動画は収録、配信され評価はLMS上でレポート、記述式試験で行われる。本プログラムは年々洗練され、順調に行われている。 ・東京理科大学との合同PBLについても、漢方医学を題材として、東京理科大学薬学部、東洋医学科と医学教育センターが担当・実施している。この授業は「課題作成型PBL」であり、成果物は他の大学の学生らが使用することを想定したPBL課題である。内容的にはそれまでに学習したすべての基礎医学科目の知識を動員することを求めている。成果物は学生、担当教員による投票で評価される。別途、PBL中のチュータによる観察評価、漢方e-ラーニングの中の小テストで行われる。 ・垂直統合型プログラムとして基礎医学と臨床医学教室との共同で実施される「臨床医学への基礎医学的アプローチ」も、基礎医学と臨床医学の教室がペアになり、毎年6つテーマで授業が展開されている。 ・新カリキュラムでは、全体を通じて統合型カリキュラムを基本的コンセプトとしている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習者評価の方略や妥当性、客観性などについての考え方はFDのテーマとしても取り上げ、適正化を進めていく。 ・新カリキュラムでは3年次に、基礎医学間の水平的統合、基礎・臨床医学間の垂直的統合を図るプログラムが予定されている。 	

改善状況を示す根拠資料

資料19 基礎医学系水平統合プログラム/PBL

資料20 臨床医学への基礎医学的アプローチ（シラバス）

2. 教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
なし	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・日本医科大学カリキュラム委員会運営細則にはカリキュラムの立案と実施に係る責任と権限、学生代表の正式な参加が明記されておらず、委員構成や審議事項に関する記載を見直すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・まず、カリキュラム委員会は 2013 年に設置され、2016 年から学生代表が正式に参加してきた。しかし細則に記載が漏れているとの指摘を受け、早急に教務部委員会で審議し記載を改めた。その他の記載事項については、今後検討していく。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・特に教育カリキュラムの立案について、その実務を担うにふさわしい委員構成を見直していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料21 日本医科大学カリキュラム委員会運営細則	

2. 教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
なし	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会に、広い範囲の教育の関係者の代表がより多く参画することが望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・現状ではカリキュラム委員会の基本的な構成メンバーに変更はない。本委員会には発足当初から学生代表に加え、メディカルスタッフの代表として看護部の参加を仰ぎ、一般市民代表として模擬患者会の参加を得てきた。現在の構成で今まで十分に機能してきたと考えている。特にカリキュラム立案という業務を考えると、実際に授業に関わる場面の多い関係者でなければ実効性が乏しいと考える。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に授業に関わる関係者という観点から、臨床実習等の協力施設からの委員選出を考慮する。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料22 令和5年度カリキュラム委員会委員名簿	

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
なし	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
<p>・本学では、卒前、卒後の教育・臨床実践の連携を図る上では医学教育関連委員会がその機能を大いに担ってきた。今後も本委員会審議を有効活用していく。</p>	
今後の計画	
・特になし	
改善状況を示す根拠資料	
資料23 日本医科大学医学教育関連委員会運営細則	

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・指導医を対象に、卒業した初期研修医の医療能力に関わるアンケートを定期的に行っている。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が将来働く環境からの情報、地域や社会の意見を参考に、確実に教育プログラムを改良することが望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・CCにおける地域医療実習協力医療機関との会合を年1回、定例化した。 ・卒業生の臨床能力調査も継続して定例実施している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・2.7とも関連するが、カリキュラム委員会に、卒業生が将来働く環境からも代表者を招くことを検討する。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料24 2023地域医療実習説明会記録 資料25 令和5年 研修医アンケート集計</p>	

3. 学生の評価

タクソノミーごとに、原理、原則に則った学習者評価を行うようここ数年は FD を開催し教員に周知してきた。これに伴いシラバス記載も見直すよう取り組んできたがまだ完全ではない。引き続き改善を図る必要がある。

カリキュラムとモデル・コア・カリキュラムの整合性を検証したのち、マイルストーンの表示内容の変更にも着手する予定であるが、若干大掛かりな作業となるため、新たにアドホック委員会を設けて対応することとなる。これに先立ち、領域 1 で指摘された使命や教育理念の検証を行う必要もある。

ポートフォリオ評価や、臨床実習における評価などすでに開始されているものについて、その活用を徹底していく必要もある。領域 3 は引き続き取り組む課題は多いと認識している。

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・「医学実地演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」などにおいて、低学年で態度評価を実施している。 ・e-ポートフォリオ、LogBook および CC-EPOC によって態度評価を行っている。 ・医学教育の専門家（特任教授）による試験問題の吟味を開始し、教務部委員会で共有している。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに各科目の評価法と合格基準を具体的に開示すべきである。 ・各種ポートフォリオの目的と位置づけを明確にし、利用度を高めるべきである。 ・臨床実習の現場において、Mini-CEX および Case-based Discussion (Cbd) などによる評価をさらに充実するべきである。 ・評価の吟味をさらに推進すべきである。 ・試験問題と模範解答を公表するなどにより、疑義申し立て制度を実質化すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに評価法の明記は進めてきたが、合格基準の明記は未だ徹底はしていない。次年度のシラバス作成時にさらなる改善を促す。 ・CC-EPOC の本格的活用開始に伴い、臨床実習前ポートフォリオ、CC ポートフォリオや LogBook の位置づけを再確認している。 ・Mini-CEX の活用は徐々に浸透しているが、Cbd については日常的なカンファレンス参加との差別化が不十分である。評価の場としての Cbd 活用の明確化を担当委員会の中で図っていく。 	

- ・医学教育の専門家（特任教授）による試験問題の吟味は順次進めている。
- ・試験問題と模範解答の公表は、総合試験を中心に適宜推進している。疑義申し立て制度そのものを現状変更する予定は無いが、学生への制度の明示を引き続き行っていく。

今後の計画

- ・各種 FD の中で、評価に関する項目は必ず取り上げるようにし、「形成的評価」と「総括的評価」とそれに適した方法、妥当性や信頼性についての共通理解の浸透を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 26 定例（R6.4 月）教務部委員会議事録（抜粋）
資料 27 定例（R5.11 月）教務部委員会議事録（抜粋）

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
なし	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育の専門家（特任教授）と教務部委員会による評価の信頼性と妥当性の検証を速やかに進めることが望まれる。 ・Mini-CEX、各種ポートフォリオの活用を実質化することが望まれる。 ・360 度評価など多面的な評価を採用することが望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育の専門家（特任教授）による基礎医学科目の試験問題の吟味は順次進めている。結果は教務部委員会で報告されている。 ・IR 室では、まず総合試験に関して、クロンバック α を用いた信頼性の検証を行った。 ・Mini-CEX、各種ポートフォリオ活用の推進については引き続き CC 実行委員会主導で取り組んでいるが、今年度はまずは CC-EPOC 利用の推進を優先課題としている。 ・360 度評価は、CC-EPOC の中での運用を検討している。また CbD と日常のカンファレンスとの差別化を行っていく。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・上記に記した案件の実質化は、継続課題として取り組んできたものである。引き続き CC 実行委員会主導で取り組んでいく。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料 26 定例（R6.4 月）教務部委員会議事録（抜粋）</p> <p>資料 28 令和 6 年度カリキュラム評価委員会_IR 室資料</p> <p>資料 29 令和 5 年度第 6 回 CC 委員会議事録</p>	

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連性
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>特記すべき良い点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーとマイルストーンを策定し、評価法を定めて学習成果を評価する仕組みを導入している。 	
<p>改善のための助言</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・各科目で修得すべきコンピテンシーを学生が明確に意識できるようにシラバスの記載を充実させ、マイルストーンを改善し、その達成を促す評価を行うべきである。 ・すべての学生が定期的に形成的評価とフィードバックを受け、学修の指針となるようにすべきである。 	
<p>関連する教育活動、改善状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーとマイルストーンを作成、提示し、その中では評価方法も併せて設定しているが、これでは学生が理解しにくいとの指摘である。本件は教務部委員会内にアドホック委員会を設け検討する必要がある。一方で本件はカリキュラムと、モデル・コア・カリキュラムとの整合性も関係してくる。まずはその検証を先に行うこととし、カリキュラム委員会がこれを行った。 ・GPA 上位者特別カリキュラム制度に伴い、GPA を用いたフィードバックが実効性を発揮している。 ・臨床実習前 e-ポートフォリオ、CC ポートフォリオ、Mini-CEX は形成的評価目的でも行われている。CC-EPOC 導入に伴い、これらの使い分けを CC 実行委員会で検討している。 ・またレーダーチャートを用いたコンピテンス達成度の明示と、これを用いた形成的評価は年度末に行われている。教授、准教授、講師（教育担当）に働き掛け利用を活性化していく。 	
<p>今後の計画</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムに準拠したマイルストーンと評価の整合性の再検証を行う。 ・ポートフォリオ評価を何らかの形で総括的評価に用いることで実効性を高める方向で検討していく。 ・レーダーチャートを用いたコンピテンス達成度を用いた形成的評価は、教授、准教授、講師（教育担当）に働き掛け利用を活性化していく。 	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料 29 令和 5 年度第 6 回 CC 委員会議事録 資料 30 医学教育分野別評価で指摘された事項とそれへの対応 資料 31 コアカリ（R4 改訂版）適合性調査結果 カリキュラム委員会報告</p>	

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連性
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の学生のコンピテンス達成度をレーダーチャートで示し、フィードバックする仕組みを構築している。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・科目の統合によって試験回数の適正化を一層推進することが望まれる。 ・学生に対して、評価結果に基づいて時期を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。 ・レーダーチャートをブラッシュアップして、時期を得たフィードバックを行う仕組みを確立することが期待される。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンス達成度のレーダーチャート表示と、これを用いたフィードバックは、主に教授、准教授、講師（教育担当）の業務と位置付けている。コンピテンス達成度の集計は学科目成績が全て出揃う 3 月末になるため、フィードバック時期はどうしても年度末～次年度はじめとなることは避けがたい。担当教員に対し FD を行い実施を徹底する。 ・新カリキュラムでは科目の統合が行われている。これに伴う試験回数の適正化は図られてはいるが、さらなる適正化はカリキュラム委員会で随時検討していく。 ・試験結果に基づいたフィードバックについては、試験問題、正答、解説の公開を教務部委員会で繰り返し議題として取り上げ改善を図っている。特に 6 年生の総合試験については、医師国家試験に向けた学習にも繋がるため改善を急ぎ行った。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンス達成度評価の活用について、基本的には総括的評価の結果を反映させた形成的評価という位置づけは変わらないが、その必要性についてはまだ学生、教員共に認知度が低い。この活用方法についてはまず、医学教育センターで検討し、教務部委員会で検討していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料 27 定例（R5.11 月）教務部委員会議事録（抜粋）</p> <p>資料 32 教育担当 FD 企画書</p>	

4. 学生

入試関連の事項については、担当委員会が極めて慎重に検証を行い、かつ社会の要請にも応じた対応を行ってきている。

4.4の「学生の参加」について、本学では早くからカリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会に学生代表が参加し、かつ実効性を発揮してきたと考える。委員会細則に記載の漏れがあったことは真摯に受け止め修正した。本学の特長として学生の自治組織である学友会とその下部組織である学生教育委員会が機能しており、これら委員会やFDワークショップにも参加し意見を述べる土壌が出来上がっている。他に何を追加すべきかは、学生側の責任感を損なうことの無いよう配慮しつつ検討していく。

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
<p>・医学部医学科募集人員は119名である。前期試験、後期試験・一般枠に加え「大学入試センター併用」枠であるグローバル特別選抜の募集を行っている。地域枠に関しても、東京都5名、埼玉県2名、千葉県7名、静岡県4名、新潟県2名である。これに加え指定校推薦枠があり、本学のアドミッションポリシーに照らし合わせ、多様な人材確保を図っている。</p>	
今後の計画	
<p>・引き続きアドミッションポリシーに照らし合わせつつ、入試改革を推進していく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料33 令和7年度入学者選抜実施要項	

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
・ なし	
改善のための示唆	
・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。	
関連する教育活動、改善状況	
・ 疑義申し立てについての対応は、入試要項等に記されている通りで特段の変更は無い。個別対応となっている。	
今後の計画	
・ 疑義申し立て制度について、入試委員会でも検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 33 令和 7 年度入学者選抜実施要項	

4. 学生	4.2 学生の受け入れ
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・ 入学者数と教育能力のバランスを常に検討し、適切に調整している。	
改善のための助言	
・ なし	
関連する教育活動、改善状況	
・ 本件については、アドミッションセンター委員会、入試委員会で継続的に検証を行っている。	
今後の計画	
・ 現行の委員会体制は問題なく機能していると考えるが、常に国や地方自治体の要請、社会状況に目を向け柔軟な対応が出来るよう努めていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 33 令和 7 年度入学者選抜実施要項	

4. 学生	4.2 学生の受け入れ
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・ 地域枠の定員を 1 都 4 県と連携を取りながら調整している。	
改善のための示唆	
・ なし	
関連する教育活動、改善状況	
・ 本件については、アドミッションセンター委員会、入試委員会で継続的に検証を行っている。	
今後の計画	
・ 地域枠に関しては、受け入れ後の連携強化にも努めていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 33 令和 7 年度入学者選抜実施要項	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生アドバイザー制度をはじめ、複数のカウンセリングシステムと支援システムが充実している 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・1 巡目の指摘を受け、システムは整備された結果である。現状を維持していく。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・一部の教員の負担が過大にならぬよう、教授、准教授、講師（教育担当）のさらなる活用を図っていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 34 学生アドバイザー制度（図）	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の教育進度に基づいたカウンセリングを行っている。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・1 巡目以後設置された医学教育センター・個別化教育推進部門が良く機能している。現状を維持していく。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育センター個別化教育推進部門と他の支援システムとの連携を図っていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 35 定例（R5.11 月）教務部委員会議事録（抜粋）	

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生代表がカリキュラム委員会やカリキュラム評価委員会に参加している。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムの管理を行う教務部委員会、学生に関する諸事項を審議する学生部委員会にも学生の参加を促し、適切に議論に加わるべきである。 ・教学に関わる各種委員会の規定を整備し、学生の参加を明確にすべきである。 ・より多くの学生が関連する委員会に学生代表として参加すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会の細則は教務部委員会等で審議し、記載を見直し、学生代表の参加を明確にした。 ・カリキュラム委員会は教務部委員会の下部組織であり、学生は間接的にこれに参加していることになる。教務部委員会や学生部委員会内の一定時間、学生代表を参加させることの意義については検討中である。 ・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会に参加する学生代表の選出は、学生の自治組織である学友会とその下部組織である学生教育委員会に委ねてある。学生の要望も聴きつつ、さらに参加の機会を増やすか否かは検討している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の自治組織である学友会と学生部委員会、学生教育委員会と医学教育センターの交流をさらに深め、学生の教育への参加の場を増やしていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料 21 日本医科大学カリキュラム委員会運営細則 資料 36 日本医科大学カリキュラム委員会運営細則</p>	

4. 学生	4.4 学生の参加
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・「みんなで学ぼう救急救命」など、医学・医療に関する学生の活動を支援している。	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
<p>・「みんなで学ぼう救急救命」に対しては、医学教育センターや附属病院心肺蘇生フォーラムなどが引き続き支援を行っている。</p> <p>・医療系大学間共用試験実施評価機構が行う、OSCE 形式の各種実証事業において、受験生役を学生が引き受けている。医療コミュニケーション研究会に所属する学生がその取りまとめ役を担っている。（根拠資料は CATO 内部資料となるため添付せず）</p>	
今後の計画	
<p>・同じく学生の自治組織である学生教育委員会等と医学教育センターの交流を深め、学生の教育への参加の場を増やしていく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料 37 みんなで学ぼう救命救急（Open Campus）	

5. 教員

教授、准教授、講師（教育担当）の登用が本領域の一つの特色であり、この制度に実効性を持たせるべく、FD の実施など急ぎ取り組んでいる。

「教員の活動と能力開発に関する方針」については、これを明確に示せるよう何らかの規約等の策定を行うこととする。

FD 関連については、本学としては長きにわたり積極的に取り組み、かつキャパシティの制約はあるものの多くの教員が参加してきた。基本的には現状維持とするが、今回の指摘を受け、内容の中に「本学のカリキュラム全体像の把握」に繋がるプログラムは毎回行うこととしたい。

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・各講座において教育担当を行う講師、准教授の制度を導入し、教員を募集し選抜している。 ・ポジティブアクションの方針に則って、女性教員の募集を進め、女性の上位職比率が向上している。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・講師（教育担当）、准教授（教育担当）の業務内容や責任を、より明確に定めて実動させるべきである。 ・教授の採用基準をより明瞭に示すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当の教授、准教授、講師を対象とした FD ワークショップを計画し、業務内容や責任を周知するとともに実働に繋げるプロダクトも提出を求める。 ・医学部教授の選考については、教授に求められる教育・診療・研究・教室運営に関する条件を担保しつつ、多様な人材の登用を可能とするため、教授選考委員会の前段階として、申請内容について教授会で承認された基準で審査を行う、医学部教授候補者事前確認連絡会が開催されている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当の教授、准教授、講師を対象とした FD ワークショップは隔年でも可としつつ定例化する。 ・教授の採用基準については社会のニーズも鑑み今後も適宜、審議を継続していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 32 教育担当 FD 企画書	

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な地域医療に対応できるようにフゾク病院やクリニックを設置し、教員を採用している。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の採用については社会のニーズも鑑み今後も適宜、審議を継続していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>特記すべき良い点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「医学教育のための FD ワークショップ」、e-Learning を活用した FD を実施している。 	
<p>改善のための助言</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の活動と能力開発に関する方針を策定して履行すべきである。 ・教員活動の質をより客観的に評価するために「ティーチング・ポートフォリオ」の活用を一層推進すべきである。 ・個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解し、教育を担当すべきである。 ・「医学教育のための FD ワークショップ」への教員の参加度を高め、教育の質向上を目指すべきである。 	
<p>改善状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の活動と能力開発に関する方針の策定については教務部委員会で検討する。 ・「ティーチング・ポートフォリオ」の活用推進は、教員採用、業績評価を管轄する委員会と引き続き協議する。 ・1000 名を超える全教員にカリキュラム全体の周知を図ることは困難も伴うが、LMS の利便性を高めるなど、引き続き努力をする。 ・「医学教育のための FD ワークショップ」は 1997 年以來実施されている、本学では極めて重要な FD である。会場ならびにタスクフォースのキャパシティから考え、毎回の参加人数は 50 名程度が妥当である。毎回、参加希望者はこれを超え、調整を行っている。また繰り返し参加希望される教員もおり、テーマは定期的に変えている。現状維持を務める。 	
<p>今後の計画</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の活動と能力開発に関する方針の策定をまず進める。 	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料 1 第42回FDワークショップ実施要綱、日程表、参加者一覧 資料 38 第43回FDワークショップ実施要綱、日程表、参加者一覧</p>	

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための示唆	
・なし	
改善状況	
・特になし	
今後の計画	
・特になし	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

6. 教育資源

領域6では、1巡目の受審の際にも指摘のあった6.2 臨床実習の資源が重要となる。改善のための助言にもある、データに基づき学生が経験すべき症例数と疾患分類の観点から、学生が十分な臨床経験を積めるように臨床実習施設を整備することにつける。CC-EPOCも活用し、学生が網羅的に重要疾患を経験できるようにすることは受審前からの課題であった。附属4病院とその立地を活かしつつこれに取り組んでいく必要がある。学生用電子カルテ端末の拡充も継続して取り組む。

6. 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・数理・データサイエンス・AI 教育を推進するために「数理・データサイエンス・AI 教育センター」を設置している。	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、現在の状況	
・数理・データサイエンス・AI 教育センターは着実に機能している。	
今後の計画	
・現状を維持する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料11 リテラシーレベルプラス選定（教務部委員会資料）	

6. 教育資源	6.1 施設・設備
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・「アクションプラン 21」による千駄木地区再開発事業を 10 年にわたって継続し学修環境を改善している。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
関連する教育活動、現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・千駄木地区以外、特に武蔵小杉地区の学修環境整備にも着手している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。 	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 39 武蔵小杉新キャンパスパンフレット	

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>特記すべき良い点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習で学生全員に LogBook を携帯させ、経験症例のデータの集積を進めている。 ・地域医療実習に協力する医療施設を、「日本医科大学臨床教育協力施設」と認定して整備している。 	
<p>改善のための助言</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・データに基づき学生が経験すべき症例数と疾患分類の観点から、学生が十分な臨床経験を積めるように臨床実習施設を整備すべきである。 ・学内のみならず学外の臨床実習指導者についても FD など教育能力を向上させるべきである。 	
<p>関連する教育活動、現在の状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・LogBook から CC-EPOC 中心の運用に移行すべく対応を進めている。 ・地域医療実習に協力する医療施設とは連携目的の会合を開催している。 	
<p>今後の計画</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療実習に協力する医療施設とは連携目的の会合に、FD 的要素を加えていく。 	
<p>現在の状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料24 2023地域医療実習説明会記録 資料 29 令和 5 年度第 6 回 CC 委員会議事録</p>	

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための示唆	
・臨床実習施設の評価、整備、改善するために、患者や地域住民からの意見や要望をより体系的に収集することが望まれる。	
関連する教育活動、現在の状況	
・カリキュラム評価委員会には地域住民代表、一般市民代表の参画も求めている。	
今後の計画	
・カリキュラム評価委員会の構成メンバーを再検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 40 カリキュラム評価委員会委員名簿	

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・学修支援システム（LMS）のコンテンツを充実させ、実際に活用している。	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
・LMS 運営委員会において、ICT 推進センターと共同で利用状況の調査を学期末に行っている。これにより利用状況も含め十分に把握している。	
今後の計画	
・特になし	
改善状況を示す根拠資料	
資料 41 令和 5 年度 LMS 運営委員会報告	

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・全講義を収録し e-Learning を通じて学生に配信して自己学習を支援している。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・付属病院での学生用端末の台数を増加させることが望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況 <ul style="list-style-type: none"> ・付属病院での学生用端末の台数を増加について CC 実行委員会で検討し対応した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・付属病院での学生用端末については利用の便も考慮し、利用頻度の把握と配置場所の検討を引き続き CC 実行委員会で検討していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 29 令和 5 年度第 6 回 CC 委員会議事録	

6. 教育資源	6.4 医学研究と学識
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・3年次の研究配属に加え、4年次以降にも後期研究配属を行い、研究の継続を奨励している。	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
・特になし	
今後の計画	
・東京理科大学、早稲田大学との連携をさらに進めている。	
改善状況を示す根拠資料	
資料10 令和5年度研究配属継続状況一覧	

6. 教育資源	6.4 医学研究と学識
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・後期研究配属を継続している学生に対する表彰制度など、学生が研究開発に携わることを奨励していることは評価できる。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・現状維持に努め、さらに後期研究配属参加者を増やしていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 42 令和 5 年研究配属に係る医学研究継続認定証及び研究配属奨励賞認定者一覧	

6. 教育資源	6.5 医学教育専門家
<p>基本的水準 判定：適合</p>	
<p>特記すべき良い点</p>	
<p>・5名の医学教育専門家が医学教育センターに専任教員として在職し、VRとICTを活用した「遠隔PBL」など、新しい教育技法の開発を行っている。</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<p>・なし</p>	
<p>関連する教育活動、改善状況</p>	
<p>・特になし</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>・兼任扱いである教授、准教授、講師（教育担当）の職務をより明確化し、センター機能をさらに拡充する。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料 なし</p>	

6. 教育資源	6.5 医学教育専門家
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・多数の競争的研究費を獲得し、学会発表や論文執筆を行うなど、医学教育分野の研究を推進している。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・競争的研究費の獲得、学会発表や論文執筆をさらに促進していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

6. 教育資源	6.6 教育の交流
<p>基本的水準 判定：適合</p>	
<p>特記すべき良い点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「Summer Student 制度」、「海外選択臨床実習（海外選択 CC）」、「東南アジア医学研究会」などの学生活動を通じて、広く海外交流を行っている。 ・東京理科大学、早稲田大学などの国内の大学との交流を促進している。 	
<p>改善のための助言</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
<p>関連する教育活動、改善状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 学年の臨床 SGL で、武蔵野大学薬学部との多職種連携教育を開始した。 	
<p>今後の計画</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携教育のさらなる推進に向け、現状では救急医学 CC の枠内に限られているが、対象となる CC 枠を広げ、他大学の薬学部、看護学部との連携をさらに進めていく。 ・地域枠で入学した学生に対しては、対象となる都道府県との交流を大学としても促していく。 	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料 14 多職種連携打合せ記録</p>	

6. 教育資源	6.6 教育の交流
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
・共用試験 OSCE に資する模擬患者を、他大学の要請に従い派遣し、これを介した教員との交流を行っている。	
今後の計画	
・特になし	
改善状況を示す根拠資料	
資料 43 定例（R5.7 月）教務部委員会議事録（抜粋）	

7. 教育プログラム評価

IR 室、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会は機能していると自負するが、さらに実効性を持たせることが求められた形である。委員会のメンバー構成の検討については早急に着手する。本学の場合、カリキュラム委員会は教務部委員会内の小委員会であり、両者の関係がわかりにくいと思われる。細則等の表記の見直しは行うが、一連のシステムにより実効性をもたせるには如何にすべきか、これを機に検討していく。

卒業生が働く環境からの情報収集、卒業生の実績のさらなる把握も継続課題である。研修医のみならず、助教らも採用時に実績を収集するなどの方略を考えていく。

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムを評価するためにカリキュラム評価委員会を設置している。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・IR室が実質的に機能する体制を整え、モニタ結果を組織的に分析し、カリキュラムとその主な構成要素を総合的に評価する仕組みを構築すべきである。 ・学生の進歩を把握し、教育プログラム評価を行い、その結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。 ・教育プログラム評価の結果に基づいて課題を特定し対応すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・IR 室におけるデータ解析の結果は、継続して教務部委員会に報告され、教授会でも情報共有が図られている。しかし、今回の指摘の通り、情報共有にとどまり、課題の特定と対応に結び付ける取り組みが不十分であると認識している。これも受けカリキュラム評価委員会には解析結果を報告し、カリキュラム改善に役立てることとしている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・モニタ結果を単に共有するのみならず、医学教育センターでその結果を分析し、課題の特定と解決策の素案まで作成した上で、教務部委員会に報告することとする。 ・カリキュラム評価委員会の活動をより一層拡充し、PDCA サイクルの中の要にしていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 44 令和 5 (2023) 年度第 1 回カリキュラム評価委員会議事録	

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
なし	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒後も含め長期間で獲得される学修成果、教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、社会的責任の達成を把握し、組織的、定期的に教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研修医およびその指導医に対するコンピテンス達成度評価アンケートは継続的に行っている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 助教（特に採用時）に対してコンピテンス達成度評価を導入してみる。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 25 令和 5 年 研修医アンケート集計	

7. 教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> アンケート、FD ワークショップ等を活用し、種々の方法で教員、学生から教育プログラムに関するフィードバックを求めている。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> 教育プログラム評価の目的を明確にして、教員と学生からのフィードバックを系統的に収集し、分析して組織的に対応すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> 入学時アンケートに始まり、年度末の授業科目ごとの授業評価アンケート、SGL 終了時、CC 終了時、卒業時アンケートは今後も継続していく。 学生自治組織である学生教育委員会の委員が、継続的に FD とカリキュラム委員会に参加しており情報収集がなされている。同委員会代表学生に対し、医学教育センターやカリキュラム委員会から依頼をかければ学生間で必要な調査を施行してくれる体制が整っている。 教科責任者全てを含む教授会で授業評価アンケートの結果は共有し、プログラム等の意見を聴取している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> IR 室の解析結果同様に、これらのアンケート結果は情報共有に留まりがちである。結果に対する考察と対応策の提示を科目責任者に求めていく。この内容を自己点検年次報告書に盛り込むことを義務付ける。 	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料 45 令和 5 年度第 3 回教務部委員会_IR 室_新入生アンケート 資料 46 授業評価アンケート集計結果一覧（年度別比較） 資料 47 SGL 終了時アンケート（例示） 資料 48 令和 5 年度【第 5 学年】臨床実習終了後アンケート 資料 49 令和 5 年度第 6 回教務部委員会_IR 室_卒業生アンケート</p>	

7. 教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員と学生からのフィードバック結果を利用して、4年次に行う「VRとICTを活用した遠隔PBL」、3年次で行う東京理科大学薬学部との「漢方医学SGL」プログラムを開発している。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員と学生からのフィードバック結果を利用し、今後も新たな教育プログラムを開発することが期待される。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・4年次の「VRとICTを活用した遠隔PBL」、武蔵野大学薬学部との合同SGL、3年次で行う東京理科大学薬学部との「漢方医学SGL」の改善を行っている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員からのフィードバックをもとに、ヒューマニティ教育プログラムの開発を行う。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 50 第 44 回 FD ワークショップ実施要綱、日程表、参加者一覧	

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果の達成について、卒業生である臨床研修医の自己および他者評価を行っている。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生と卒業生の実績をもとに、使命と意図した学修成果の観点から教育プログラムを分析すべきである。 ・卒業生が働く環境からの情報を含め卒業生の実績を収集し、カリキュラムおよび教育資源を分析すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・「本学卒業、初期研修中の医師の医療能力の評価アンケート調査」：コンピテンス達成度評価は継続して行っている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生と卒業生の実績をもとにした使命と意図した学修成果の観点からの教育プログラム分析はカリキュラム委員会と医学教育センターが中心に行い、カリキュラム評価委員会に提出し包括的評価に資することとする。 	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 25 令和 5 年 研修医アンケート集計	

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生と研修医の実績を分析し、入学試験委員会およびアドミッションセンター委員会、カリキュラム委員会にフィードバックしている。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が働く環境からの実績を収集し、学生の背景と状況との関連を分析することが望まれる。 ・学生カウンセリングに関する分析の結果を、責任がある委員会に確実にフィードバックすることが望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・「本学卒業、初期研修中の医師の医療能力の評価アンケート調査」：コンピテンス達成度評価は継続して行っている。学生の背景と状況との関連の分析には至っていないため、卒後研修委員会に協力を求める。 ・学生カウンセリングに関する分析の結果は学生部委員会に確実にフィードバックされている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が働く環境からの実績収集を、卒後研修委員会と協働で強化していく。 	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 51 定例（R6.4 月）新旧合同学生部委員会議事録（抜粋）	

7. 教育プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価委員会に、教育に関わる主要な構成者、および広い範囲の教育の関係者が含まれている。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価委員会の規定を整備し、学生の参加を明確にすべきである。 ・カリキュラム評価委員会の機能をさらに高めるために、委員の構成および人数の適切性を検討し、調整すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価委員会の規定を見直し、学生の参加を明確にした。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価委員会の機能をさらに高めるために、委員の構成および人数の適切性を検討する。まずは卒業生が働く環境からの代表者を増員する。 	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 36 日本医科大学カリキュラム委員会運営細則	

7. 教育プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・さらに広い範囲の教育の関係者にカリキュラム評価の結果の閲覧を許可することが望まれる。 ・卒業生が働く環境から卒業生の実績およびカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨時カリキュラム評価委員会を開催し、卒業生が働く環境から卒業生の実績およびカリキュラムに対するフィードバックを求めた。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価委員会議事録を編集し、大学 HP で公開することを検討する。 	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 52 2023 年度臨時カリキュラム評価委員会議事録 (R5.9.19 開催)	

8. 統括及び管理運営

領域7とも関連するが、教務部委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会の規定を相互に照らし合わせ、その関連する責務についての整合性をはかり、より明確に記載する。また、今回の指摘の通り、「自己点検年次報告書」を十分に活用し、これに基づいた改善など、管理運営の質保証の一層の充実を図ることとする。

8. 統括および管理運営	8.1 統轄
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための助言	
・教務部委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会の役割と責務を明確にして規定に定めるべきである。	
関連する教育活動、改善状況	
・教務部委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会の規定そのものは再確認した。	
今後の計画	
・教務部委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会の規定を相互に照らし合わせ、その関連する責務についての整合性をはかり、より明確に記載する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

8. 統轄および管理運営	8.1 統轄
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための示唆	
・カリキュラム委員会だけでなく教学に関わる他の委員会組織においても、主な教育の関係者、その他の教育の関係者の意見を反映させることが望まれる。	
関連する教育活動、改善状況	
・特になし	
今後の計画	
・教学に関わる重要な委員会として、CC 実行委員会に教員以外の参画を検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

8. 統轄および管理運営	8.2 教学における執行部
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
・特になし	
今後の計画	
・教学における執行部の範囲を明確化していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

8. 統轄および管理運営	8.2 教学における執行部
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための示唆	
・教学における執行部の評価を、医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に行うことが望まれる。	
関連する教育活動、改善状況	
・特になし	
今後の計画	
・教学における執行部の範囲を明確化し、自己点検年次報告書の記載を整備する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

8. 統轄および管理運営	8.3 教育予算と資源配分
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・教務部委員会管理経費、研究部委員会管理経費、学長裁量経費等によって教育上の要請に沿った教育資源を配分している。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

8. 統轄および管理運営	8.3 教育予算と資源配分
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための示唆	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
・特になし	
今後の計画	
・現状を維持する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

8. 統轄および管理運営	8.4 事務と運営
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
・特になし	
今後の計画	
・現状を維持する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

8. 統轄および管理運営	8.4 事務と運営
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・「日本医科大学内部質保証の方針」に基づき、毎年、自己点検・評価を行い、独自の「自己点検年次報告書」としてウェブサイトに公開している。 	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価に留まらず、「自己点検年次報告書」に基づいた改善など、管理運営の質保証の一層の充実が望まれる。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・「自己点検年次報告書」の記載内容を各部署で周知していくことから取り組む。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 53 2023 年度版自己点検年次報告書の作成について（依頼書）	

8. 統轄および管理運営	8.5 保健医療部門との交流
基本的水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための助言	
・なし	
関連する教育活動、改善状況	
・第5学年 CC 中の実習先となる診療所との連携会議を再開している。	
今後の計画	
・第5学年 CC 中の実習先となる診療所との連携会議に FD 的内容を加えていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料24 2023地域医療実習説明会記録	

8. 統轄および管理運営	8.5 保健医療部門との交流
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべき良い点	
・なし	
改善のための示唆	
・保健所、保健センター、診療所、訪問看護センター、特別介護施設等の保健医療のパートナーとのさらなる協働が望まれる。	
関連する教育活動、改善状況	
・特になし	
今後の計画	
・各種保健医療のパートナーとの協働実態を改めて把握する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 なし	

9. 継続的改良

カリキュラム評価委員会は、自己点検委員会の下部組織である。メンバー構成も含め検討し、その機能を拡充させ、同じく自己点検委員会が策定する自己点検年次報告書も活用し、これをもとにしたアクションプランの策定を図るシステムを今回の受審を機に構築したい。

9. 継続的改良	
基本的水準 判定：適合	質的向上のための水準 評価実施せず
特記すべき良い点	
<ul style="list-style-type: none"> ・「日本医科大学内部質保証の方針」を定め、自己点検評価委員会を中心とした定期的な自己点検評価を行い課題の修正に取り組んでいる。 	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラム評価を実質化し、課題を特定し教育の改善に繋げるべきである。 ・経費のみならず、人的資源、物的資源の観点からもさらに適正に配分すべきである。 	
関連する教育活動、改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検年次報告書の作成のみならず、これをもとにしたアクションプランの策定を図るシステムを構築する。 ・カリキュラム評価委員会の構成メンバーも含めた見直しを図り、教育プログラム評価の実質化を図る。 ・経費のみならず、人的資源、物的資源の配分により一層留意していく。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料 54 日本医科大学 内部質保証の方針	

まとめにかえて

2巡目の受審を終えて

先の分野別評価2巡目で指摘を受けた多くの課題について、まずは受審直後にFDを開催し学内での情報共有を図った。その後、課題は医学教育センターで精査し教務部委員会にはいくつかの提言をしている。

前回同様、速やかに3巡目を目指し改善に着手していると考ええる。しかし、前回は「新カリキュラムの策定」も同時にスタートしたが、今回はその際策定した新カリキュラム導入からまだ時間が経っておらず検証はされていない。少なくとも大幅な軌道修正が必要な状況ではないことは、このカリキュラム策定に医学教育分野別評価受審での多くの示唆が活かしているからであると考ええる。

引き続き本学の使命に基づき、独自性も発揮しつつ、さらには医学教育分野別評価の指摘事項も批判的に吟味しつつ、全学で教育改善に取り組んでいく所存である。

以上